

発展し続けるパラリンピック



四年に一度行われたパラリンピックは、イギリスの医師、ルートヴィヒ・グッドマンが提案したことから、今なお続いています。

パラリンピックが始まったきっかけは、1948年、イギリスの「ストーク・マンデビル病院」で、医師、ルートヴィヒ・グッドマンが提案し、1952年に、「ストーク・マ

ンデビル競技大会」が行われました。

「ストーク・マンデビル競技大会」が「パラリンピック」と呼ばれるようになったのは、ドイツ大会の時からです。その時から、同じ国と都市で行われるようになりました。

2001年スイスにおいて、国際パラリンピック、国際オリンピックの両会議によって、「もう一つのオリンピック」にふさわしい大会になるよう発展し続けています。(北中・下村)



湘南

白百合学園

新★聞

4年梅組

作成者：柏瀬・北中・下村・帖佐・椿・原澤・水野

湘南白百合学園小学校
〒251-0035 神奈川県藤沢市
片瀬海岸 2-2-30
TEL：0466-22-0200

選手への思いやり



パラリンピックの選手村というのは、大会に出場している方をむかえる大事な役目を果たす場所です。村内の建物は、計画段階から障がい者に配置されていて、段差の解消、通路の確保、車イスでも入れるトイレなどの整備が行われています。また、パラリンピック選手村開村期間中には、視覚障がいのある選手の為に、車イス修理所などのサービスも行っています。

大会に参加する選手、役員のみなさんが最高のコンディションで競技に取り組むことができます。(柏瀬)

視覚障がい者の方
は、目が悪いからとても不便な生活をしていると思いがちですが、健常者の方と、同じ生活をしています。

例えば、買い物に行く時、お金を払う時はどうするのでしょうか。小銭は、重いもの、小さいものがあります。それを手で触って確

認します。お札は、千円札、五千円札、一万円札の大きさが微妙に違うので、それを手で触りレジに出します。

視覚障がい者の方にとって、身近な工夫が大切になり、工夫が増えることで住みやすい世界になるのです。(水野)



工夫で住みやすい世界に



みなさんは、パラリンピックの表しよ

う式で選手の方がメダルを耳元に当てているのを見た事がありますか。この動きには意味があります。

パラリンピックの

メダルの楽器

メダルには、音がなる仕組みがあります。選手の方は、メダルの音を聞いて金、銀、銅かを調べているのです。また、金、銀、銅で音がちがうのです。(椿・原澤)